

県立新潟女短大 柳原 文一

1. 昔は自家生産していた家庭生活に必要な物品が社会的・職業的生産に移され、一般家庭はそれを購入して生活するようになった。従って生活合理化のためには衣食住に分けて研究されていたそれらを商品学として研究することが必要となって来た。従来これは家庭経済学の一部として研究、教授されていたが、現在は家庭商品学として独立させるべきであるという見解からこの研究を始めた。

2. 論理的方法による。

3. 科学は細分化、専門化、精密化の方向をたどる傾向をもつ。そしてそれは時代の要請によって促進される。家政学は今まで生活必需品を自給自足していた時代の名残りを多く残していたことによって、時代に取り残されようとしている。家政学では生活に使われる物品の研究を衣・食・住等の各分野で別々に行ない、あるいは家庭経済学の一部で行なって来た。これでは不充分である、というより家庭生活の合理化という目的を果たしえない。必然的に家政学の一分科としての家庭商品学を誕生させるべきところに来ているのである。

商品学は商学の一部門として従来から存在した。しかしそれは生産者、販売者側から見たものである。消費者としては消費者側のそれが必要である。消費者は商品の理化学的性質だけでなく、その生産・流通その他の経済的機構を知らなくてはならない。消費者の商品学的知識の向上によって家庭の、ひいては国家の経済的進歩がえられるのである。